

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2017 AUTOBACS SUPER GT Report SUPER GT in KYUSHU 300km

第3戦 オートポリス

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆5月21日(日) RACE

決勝結果 10位

<決勝>天候：晴れ コース状況：ドライ

立川祐路が果敢なアタックをみせたものの、タイム抹消の憂き目にあった予選日から一夜明け、SUPER GT 第3戦オートポリスは決勝日を迎えた。この週末はずっと天候が良く、この日も朝から雲がほとんどない晴天模様。LEXUS TEAM ZENT CERUMO は多くのファンが訪れたピットウォーク等のイベントをこなし、午後0時25分からのウォームアップ走行に臨んだ。



20分間の走行のなかで ZENT CERUMO LC500 はレースに向けた確認を行いながら、1分13秒725というタイムで13番手につけることになるのだが、立川の走行中にGT300クラスの#51 RC Fと接触してしまい、立川に警告を表す黒白旗が提示される。これがレース後、大きな意味を持つことになった。

迎えた午後2時からの決勝レースで、ZENT CERUMO LC500のスタートを担当したのは立川。予選グリッドどおりオープニングラップを8番手で終



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

え、前を追おうとしたが、迎えた4周目にピットスタートだった#8 NSX-GTがGT300クラスの集団のなかで#65 メルセデスと接触。最終コーナーでスピンを喫してしまい、そこに#31 PRIUS GTらがクラッシュ。セーフティカーが導入された。

レースは14周目にリスタートとなったが、立川の前を走っていたのは#6 LC500。20周目を迎えるころになると、さらに#37 LC500を交え立川とともにレクサス LC500による三つ巴の6番手争いが展開されはじめた。いずれも ZENT CERUMO LC500と同様に燃料流量リストラクターに制限を受けているマシン同士だ。



さらに立川の後方に迫った#12 GT-Rらを含めた戦いのなかで、21周目に立川はうまく#6 LC500をかわすと、さらに#37 LC500もオーバーテイク。これで6番手まで躍り出る。さらに前に行く5番手の#16 NSX-GTを追ったが、好事魔多し。28周目、第1ヘアピンに差しかかった立川はGT300クラスの#87 ランボルギーニを抜こうとした際に接触してしまう。

#87 ランボルギーニは大きくコースアウトをするほどではなかったが、この間に立川はふたたびふたつポジションを落とし、さらに後方には#23 GT-Rが接近。ただ、#23 GT-Rにはポジションを譲ることなく立川は31周を終えピットへ。予定のスティントを終えて石浦宏明に交代した。



ピットアウトした石浦だが、すぐにGT500やGT300の車両が入り乱れた集団のなかに入ってしまう。ここで11番手の#24 GT-Rをかわそうと奮闘していた石浦だったが、逆に#19 LC500にかわされてしまうなど、目まぐるしく順

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

位が変わっていく。石浦は#16 NSX-GT を 34 周目にパス、さらに 57 周目には#24 GT-R をかわしポジションを上げたものの、そこからはなかなか順位を思うように上げていくことができない。

舞台であるオートポリスは非常にコースレイアウトがタイトであり、ZENT CERUMO LC500 は燃料流量リストラクターが制限されていることもあり、村田卓児エンジニアによって得意のコーナリングスピードを活かすべくセットアップされていたが、このラウンドのように各所でバトルが繰り広げられ、前に詰まってしまう状況ではコーナリングスピードを活かすことができない。石浦にとっては苦しい展開となってしまったが、それでも 51 周目に#1 LC500 がストップしひとつポジションを上げ、なんとか踏ん張り 9 位でチェッカーを受けた。



これで 2 ポイントを獲得し、苦しいなかでも最低限の結果を得た……と思っていたのもつかの間。レース後、予選に続きまたしても LEXUS TEAM ZENT CERUMO のリザルトに変更が加えられることになった。立川が#87 ランボルギーニと接触したことが原因だ。



この接触自体はペナルティではなく、警告を示す黒白旗だ。しかし、SUPER GT のスポーティングレギュレーションには『同一競技会で 2 回以上「危険なドライブ行為（黒白旗提示）」と判定された場合は罰則が課せられる』と定められており、立川のウォームアップ走行での接触と、

レース中の接触の 2 回で 36 秒加算のペナルティとなってしまったのだ。



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

結果的に、ZENT CERUMO LC500 の順位はひとつ繰り下がり 10 位となった。かろうじて 1 ポイントを得たことはレース展開を考えれば幸いではあったが、もう少し大きなポイントを得なければチャンピオンの道は遠い。

LEXUS TEAM ZENT CERUMO は 7 月 22～23 日に開催される第 4 戦スポーツランド SUGO でのレースに向けて、テストで ZENT CERUMO LC500 のパフォーマンスをさらに突き詰めていく。



ドライバー／立川祐路

「全体的に激しいレースでしたね。序盤からレクサス同士の戦いも激しく、そのなかで 2 台をパスすることができましたが、一方で GT300 クラスの車両と軽く接触してしまって、そのスキに抜き返されたりなど、あちこちでそういうことがあって、本当に大変なレースでした。ウォームアップでも接触があって、最終的にペナルティを課されてしまいました。中盤戦を考えるとポイント圏外にいたので、1 ポイントでも持ち帰れたのは良かったです。とは言えもっとポイントを獲らなければなりません。今後各車ともウエイトハンデも揃ってくるでしょうし、シリーズ中盤でしっかりポイントを獲れるよう、これからのテストを頑張りたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「ピットアウトした段階で、早めにピットインしていたライバルに先行されていました。2～3 周くらいして追い上げようとしたところで、GT500 と GT300 の集団のなかで接触しながらセクター 3 を走っていたら、そこでいち



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ばんうしろにいた 19 号車にかわされてしまいました。競っているなかでポジションを失ってしまったのは反省点ですね。そこから 2 台を抜いたのですが、抜くのにかなり時間がかかり、19 号車と離れてしまったのも悔しいところです。近いウエイトハンデを積みながらも僕たちよりも速いクルマもいたので、今後のテストで決勝レースのペースを夏に向けて改善しなければならないと思います」

浜島裕英監督

「結果的にピットアウト後に大きく順位を落としてしまったのが反省点ですね。時間はそれほどかかっていなかったとは思いますが、ほんのわずかな問題だったのかもしれませんが。このあたりをしっかりと検証しなければ次戦も同様のことがあり得るので、課題をしっかりとつぶしていかなければと思っています。速さはあるので、問題点をつぶしていけばまた上位に戻れると思っています」



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	Time	BestLapTime
1	36	au TOM'S LC500	65	1:59'56.800	1'37.005
2	17	KEIHIN NSX-GT	65	2:00'23.392	1'37.475
3	100	RAYBRIG NSX-GT	65	2:00'23.556	1'35.661
4	46	S Road CRAFTSPORTS GT-R	65	2:00'23.938	1'36.952
5	23	MOTUL AUTECH GT-R	65	2:00'24.579	1'38.082
6	37	KeePer TOM'S LC500	65	2:00'25.199	1'37.436
7	12	カルソニック IMPUL GT-R	65	2:00'37.235	1'37.646
8	19	WedsSport ADVAN LC500	65	2:00'39.095	1'37.821
9	24	フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R	65	2:01'03.994	1'38.167
10	38	ZENT CERUMO LC500	65	2:01'15.378	1'37.668
11	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	64	2:00'10.157	1'37.488
12	64	Epson NSX-GT	64	2:01'14.030	1'39.211
13	6	WAKO'S 4CR LC500	62	1:55'41.825	1'37.583
14	1	DENSO KOBELCO SARD LC500	50	1:34'29.962	1'37.206
	8	ARTA NSX-GT	3	6'04.825	1'42.919

No.38 決勝結果に 36 秒加算 (Spr13 条 12 同一競技会での黒白旗 2 回判定)

